

編集後記

二月中旬、文科省から小中学校の学習指導要領改定案が発表された。子供たちの学力低下が指摘される中で、授業時間を増やし、「言語力育成」が強調された内容であった。国語は「言語力育成」の中核を担う学科として、話す・聞く・書く・読むの基本能力を確実に身に付けさせることが強調された。小学校から古典を採り上げることも定められた。今後、学校教育の現場で、われわれ国語科の構成員が担う部分が非常に大きくなると思う。「言語力育成」ができる力を、しっかり身に付けていきたいものだ。

本年をもって棟方徳先生が退職される。突然のご退職表明、今後は静かに自分を見つめる生活をしたいとのご意志、国語科構成員一同の驚きとショックは言いようがなかった。国語科の一番若い、有能なスタッフに去られることは、たいへんな痛手、寂しさも限りない。しかし、先生のご意志は固く、お送りせざるを得なくなった。先生の新しい人生の幸いを祈りつつ、お別れしたい。

(Y)

岐阜聖徳学園大学国語国文学 〈第二十七号〉

平成二十年三月十日 印刷

平成二十年三月十五日 発行

編集・発行 〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西二丁目一番地

岐阜聖徳学園大学

国語国文学会

代表 安田 徳子

印 刷 〒440-0004 愛知県豊橋市下地町字宮腰二四

(有) イ シ ン グ ロ 高 速 印 刷

TEL (〇五三三) 五四一四九六

FAX (〇五三三) 五四一七三六